



木津川アート2011
ライブ&ワークショップ



町の歴史に詳しい地元の方にお話しを聞きながら、木津川アートのコースを巡る。小雨に降られるシーンもあったが、アートの会場では作家本人の解説が聞いてよかったと好評だった。



参加型パフォーマンス。だれが通行人でだれが仕掛け人か、そんな奇妙な場面が加茂エリアの船屋通りで繰り広げられた。変だけど楽しい。大人も子どもも町に溶け込んだ。



坂本公成+
Monochrome Circus
主催：JCDN

デザイン：野田菜奈美



旧奈良街道のまち歩きをしたあと、岡田翔さんの指導の下、ペーパークラフトでその通りの景色を再現した。子どもも大人も真剣に取り組んだ1時間だった。



9月に「あなもるフォーズ」制作のためのワークショップが行われた。上粕駅から市庁舎までを写真を撮りながら歩くツアー。普段は車で通る泉大橋を歩いて渡る。木津川が美しい。



油彩による抽象絵画が出来上がっていく過程や、作品が無造作に並んだ空間を公開した。作家の息づかいを間近に感じる暑い暑い夏だった。

(西岡様倉庫にて)



演奏会場は、今はもう使われていない旧加茂町議場(現木津川市加茂支所)。ことのほか音響はすばらしく、議員席と傍聴席で聴く観客は、異空間でのジャズライブを楽しんだ。



キラキラと光るオーナメントの制作。集会所の台所が工作場所となった。「こんなことするの何年ぶりだろう。」たどたどしいお父さんの手つきが微笑ましかった。



11月3日（祝）

オカリナ演奏／ラ・クロシュ

ライブ



オカリナ五重奏。おなじみの唱歌やクラシックの楽曲が素朴でやさしいオカリナの音色で奏でられた。会場の米蔵の中はもちろんのこと、蔵の外の路地までも響き渡り、郷愁を誘った。

11月12日（土）

尺八・琴演奏／山口秋月・朋子

ライブ



木津本町の町屋がカフェになった。そのミニ能舞台での和楽器演奏は新鮮だった。気軽に古典と親しめるスポットの誕生である。

11月6日（日）

サウンドパフォーマンス／山崎昭典・中川裕貴

ライブ



米蔵で展示している中尾めぐみさんの油彩画をバックに即興演奏がおこなわれた。かすかな音から始まり、最後はまるで背面に描かれている大きな木々が揺れているようなイメージが蔵を包んだ。

山崎昭典（ギター）
中川裕貴（エレКТリックバス）

11月11日（金）

「東白陵先生について」講師：松久保秀胤師（薬師寺長老）

講演会



戦後間もない時代、生徒たちと寝食を共にしながら美術を教え、「鹿背山の仙人」と呼ばれた東白陵（あずまはくりょう）。薬師寺の天井を模写していた頃を知る薬師寺長老の松久保秀胤師に講演していただいた。